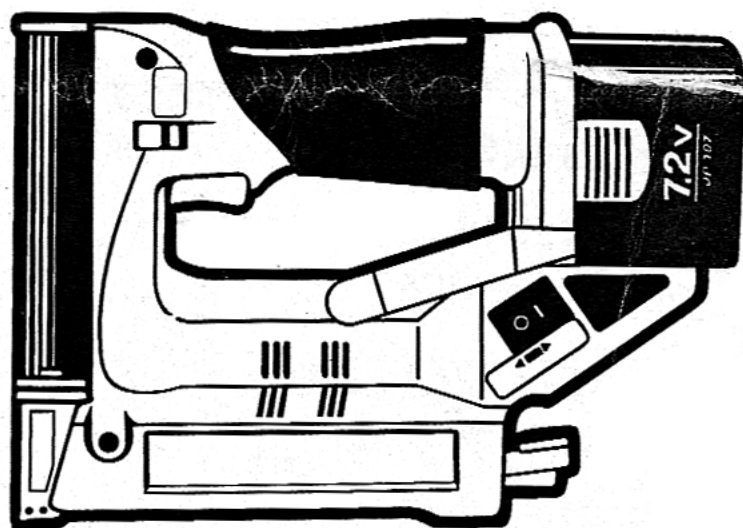


# マックスバッテリータッカ TG-Ⅱ

## 取扱説明書

### ⚠ 警告

- 使用前に必ず取扱説明書を読む。
- 使用の際は、作業者およびまわりの人も必ず保護メガネを着用する。
- 安全装置が完全に作動するか使用前に必ず点検する。正常に作動しない場合は使用しない。
- 打つ時以外は絶対にトリガに指をかけない。
- 射出口を絶対に人体に向けない。
- 移動する時、使用しない時、調整・修理・ステープル装填・電池パック交換の時は必ずトリガをロックし、メインスイッチをOFFにする。
- フック使用の時は、必ずトリガをロックし、メインスイッチをOFFにする。
- 雨の中、水のかかる場所では絶対に使用しない。
- 揮発性可燃物のそばで絶対に使用しない。
- 異常を感じたら絶対に使用しない。



- この取扱説明書は常時内容が確認できる  
よう保管してください。
- 本機の仕様は機能向上のため、予告なし  
に変更することがあります。

**MAX**®

このたびは、マックスバッテリータッカをお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。本機の取扱いにあたって、この取扱説明書を最後までよくお読みください。使用上の注意事項、使用方法、能力などについて十分ご理解の上、安全に適切にご使用くださるようお願いいたします。

**⚠ 警告：** この表示は、取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合を表しています。

**⚠ 注意：** この表示は取扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される場合を表しています。  
また、取扱いを誤った場合には、釘打機本来の性能を発揮しないばかりでなく本機の損傷につながる事が想定される場合を表しています。

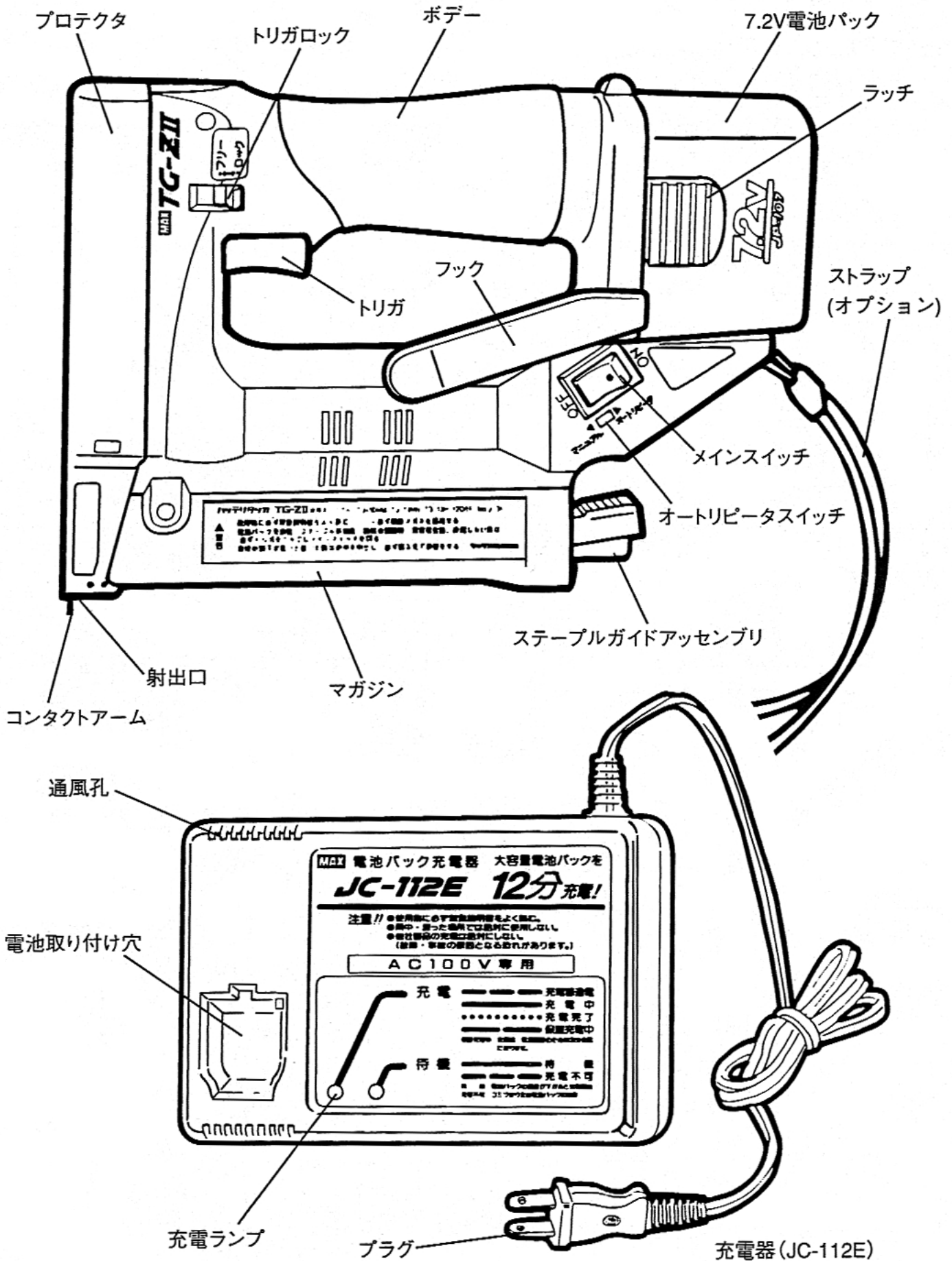
## 目 次

1. 各部の名称	1
2. 安全作業のために	2
3. 安全装置について	9
4. 仕様及び付属品	11
5. 使用ステープル	11
6. 使用方法	12
7. ステープルづまりの直し方	18
8. コンタクトアームの掃除の仕方	21
9. ブザーによる警報と処置方法	24
10. ニカド電池のリサイクルについて	25
11. 性能を維持するために	25
12. 保証、アフターサービス、補修用性能部品について	25

全国販売拠点、サービス拠点一覧

# 1

## 各部の名称



本機は、防湿シート・アスファルトフェルト・布・薄ベニヤ等を木材またはそれに類した材料に止めることを目的とした工具です。指定以外の用途、使用方法は、重大な事故につながる恐れがあります。本取扱説明書の記載事項を厳守してください。作業関係者以外、特に子供は作業場所に近づけないでください。また本機に触らせないでください。

## 作業前

①使用の際は、作業者およびまわりの人も必ず保護メガネを着用する。

ステープル打ち作業時、打ち損じのステープルがはね返り、眼に入ると失明する恐れがあります。作業する本人はもとよりまわりの人も必ず保護メガネを着用してください。

②防音保護具を着用する。

ステープル打ち作業をする時、打込音から耳を守るため、作業環境に応じて防音保護具（耳栓等）を使用してください。

③本機を点検する。

使用前にはネジの締め付けが緩んでいたり、抜けていないか、各部部品がはずれていたり、いたんでいないか、必ず点検してください。不完全なまま使うと、事故や破損の原因になります。

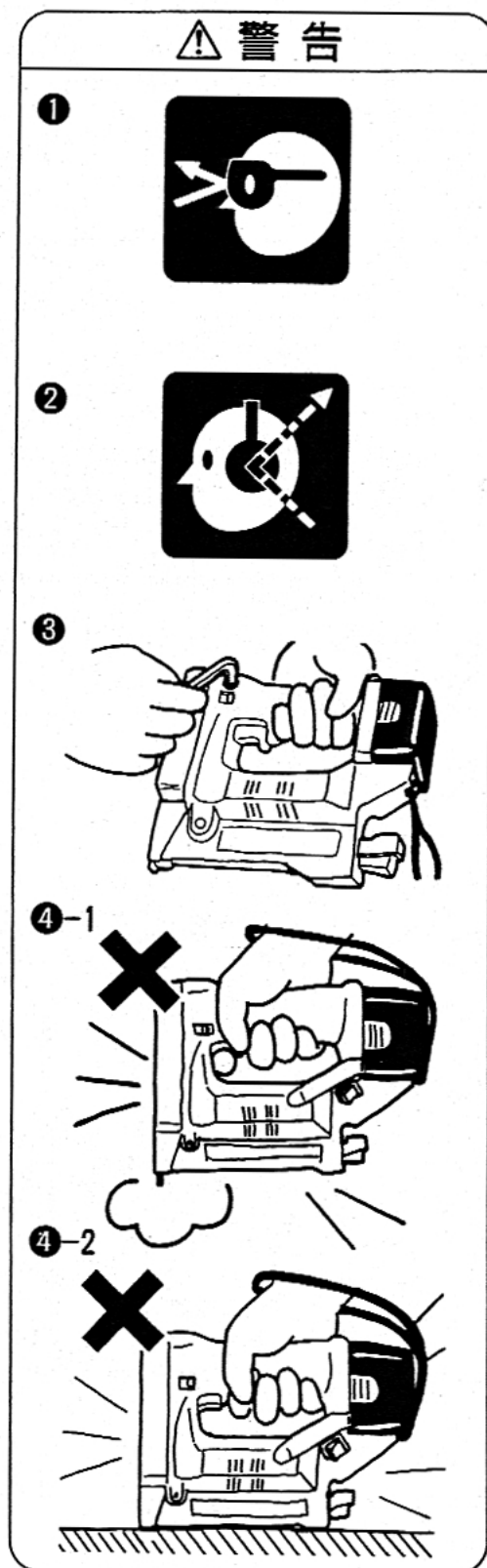
④安全装置を確認する。

使用前には、必ず安全装置がその機能を適正に働かせているか確認してください。（安全装置の説明9ページ参照）

- トリガロックをフリーの位置にセットし、ステープルを装填しないで確認してください。
- 電池パックを充電してから行ってください。

※下記の場合には、安全装置が故障していますから本機を絶対に使わないでください。

- 1.トリガを引いただけで作動音がる。
- 2.コンタクトアームを打込対象物に当てただけで作動音がる。



**⑤ 指定ステープルを必ず使用する。**

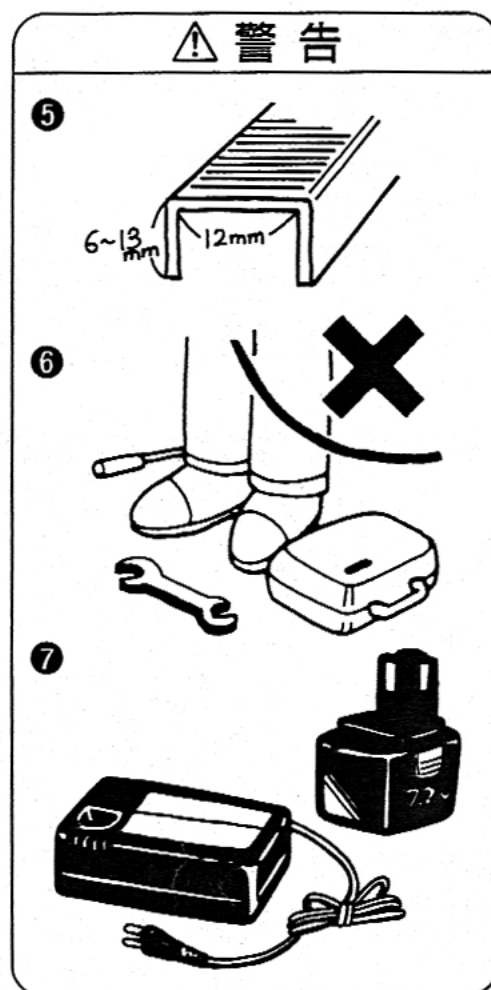
指定されたステープル（取扱説明書11ページ参照）と異なるものを使うと本機の故障や事故の原因となりますので、必ず指定のステープルをお使いください。

**⑥ 作業場所を常に整理する。**

作業場所が乱雑だと、つまづくなどして思わぬ事故の原因となります。作業場所の整理、整頓をして安定した姿勢で作業を行なってください。

**⑦ 必ず専用電池パックを使用する。**

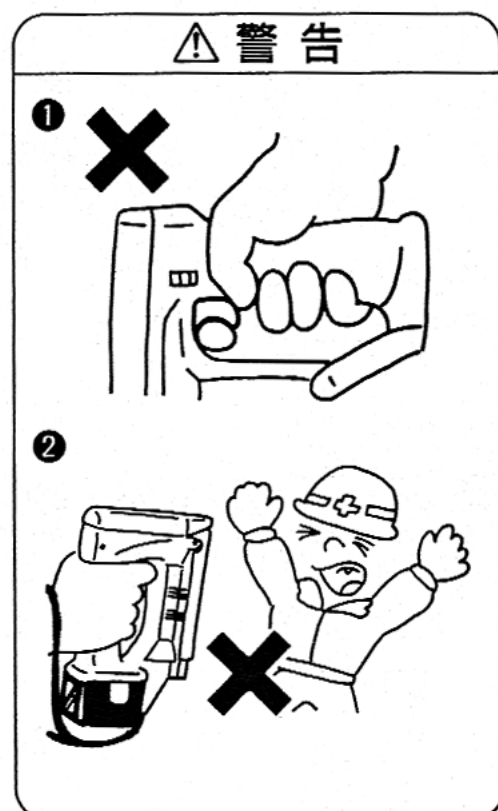
本機には必ず専用電池パックJP-107をお使いください。他の充電式電池や乾電池、自動車用蓄電池等を接続すると本機の損傷や発火の恐れがありますので、絶対に接続しないでください。


**作業中**
**① 打つ時以外は絶対にトリガに指をかけない。**

トリガに指をかけたまま本機を取り回し、誤って発射した場合は思いがけない事故につながります。ステープルを打つ時以外は絶対にトリガに指をかけないでください。

**② 射出口を絶対に人体に向けない。**

射出口を人に向け、誤って発射した場合には思いがけない事故につながります。また、射出口付近に手足等を近づけての作業は危険ですからさけてください。同時に、打ち損じたステープルが人に当たらぬよう作業中はまわりの人に注意をはらってください。



## ③射出口を確実に対象物に当てる。

射出口を確実に対象物に当てないと、一度打ったステーブルや木の節などに当たった場合、ステーブルがはねたり、それたりして大変危険です。また、機体が強く反発することもあり危険ですから、射出口を確実に対象物に当ててください。

## ④揮発性可燃物のそばで絶対に使用しない。

本機は、使用中に整流火花を発生します。スイッチのON、OFF時に火花を発生することもあります。ガソリン、シンナー、ガス、塗料、接着剤など揮発性可燃物のそばでは引火または、爆発の恐れがありますので、絶対に使用しないでください。

## ⑤移動する際は、必ずトリガをロックし、メインスイッチをOFFにする。

トリガを引いたまま本機を持ち歩いたり、手渡し等をし、誤って発射した場合には思いがけない事故につながります。移動する際は、必ずトリガをロックし、メインスイッチをOFFにしてください。

## ⑥フック使用時は必ずトリガをロックし、メインスイッチをOFFにする。

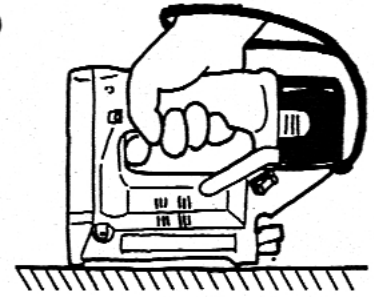
フックを使う時は誤ってステーブルを発射すると危険ですから、必ずトリガをロックし、メインスイッチをOFFにしてください。

## ⑦連続作業後は必ず本機を休ませる。

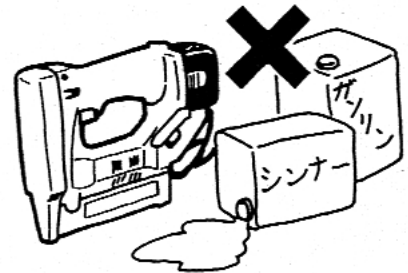
連続して使用した場合は、モータの発熱により温度が上昇します。そのまま使うとモータ焼損等故障、事故の原因になる事がありますので、本体が熱くなったらしばらく休ませ熱がさがってからお使いください。

## ⚠ 警告

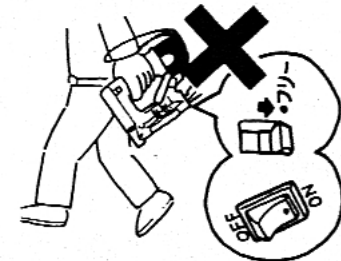
③



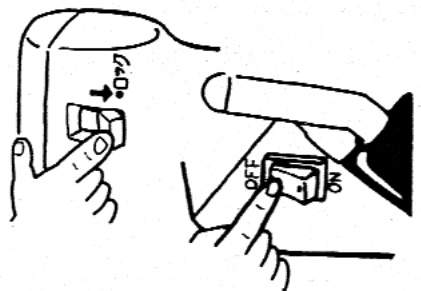
④



⑤



⑥



⑦



## ⑧異常を感じたら絶対に使用しない。

作業中に本機の調子が悪かったり、異常を感じたらただちに使用を中止してください。異常のある場合はお買い求めの販売店又はマックスサービス㈱に点検・修理に出してください。

## ⑨電池パックの交換時、ステープルの装填時、作業中断時は必ずトリガをロックし、メインスイッチをOFFにする。

電池パックの交換時、ステープルの装填時、作業をしない時、誤ってステープルを発射すると危険ですから、必ずトリガをロックし、メインスイッチをOFFにしてください。

## ⑩雨の中、水のかかる場所では絶対に使用しない。

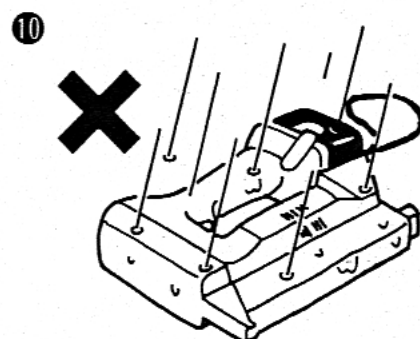
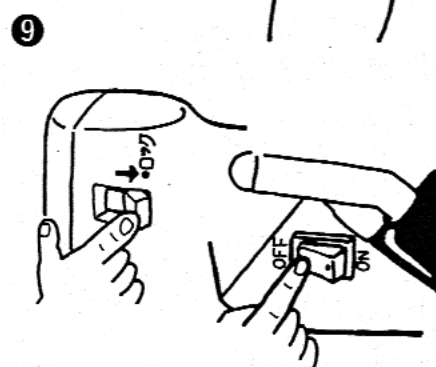
雨の中、水のかかる場所、濡れた場所、湿った場所では絶対に使用しないでください。感電事故の元となります。また、本機を雨の中に放置しないでください。

## ⑪コンタクトアームの掃除を行なう。

アスファルト、ゴミ等が付着してコンタクトアームが戻らない時は、「ピー」という警報とともに打ち込みができなくなります。この場合は、コンタクトアームの掃除を行なってください。

(コンタクトアームの掃除の仕方21ページ参照)

## ⚠ 警告



## 2

## 警告

## 安全作業のために

## 作業後

- ①作業終了時には必ずトリガをロックし、メインスイッチをOFFにする。

作業終了時には必ずトリガをロックし、メインスイッチをOFFにしてください。

- ②作業終了時には必ずステープルを抜き取る。

ステープルをマガジン内に残しておくとなりに使用するときうっかり手をふれたり、誤って作動させた場合思わぬ事故につながる可能性があります。作業終了時には必ずマガジン内のステープルを抜き取ってください。

- ③本機を収納保管する。

作業終了後、または使わない時はキャリングケース等に収納し、気温が50℃以上にならない乾燥した風通しの良い所に保管してください。また、保管場所は子供の手の届かない高い所や鍵のかかった所にしてください。

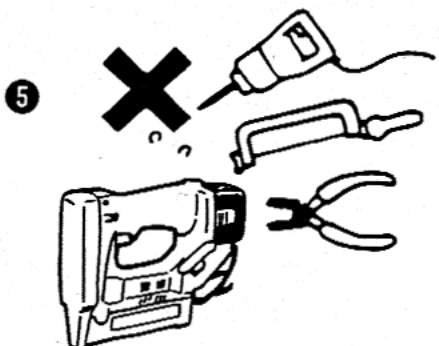
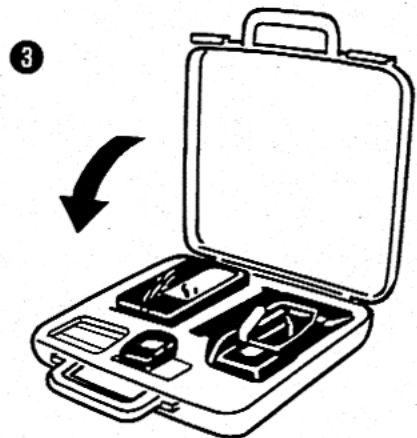
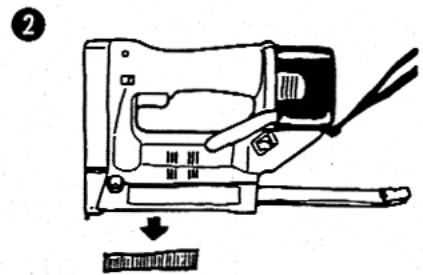
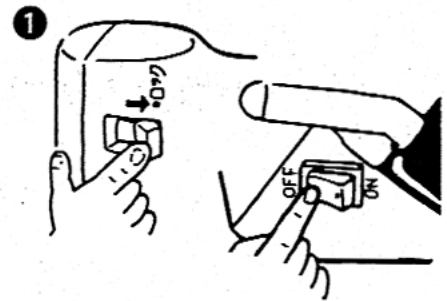
- ④本機を大切に手入れする。

より安全に性能を発揮させるため、本機は摩耗、損傷のない最良の状態に保ってください。本機はいつも清潔にし、ほこりや塵を取りはらってください。特にグリップ部は、油やグリースがつかないようにしてください。

- ⑤本機を絶対に改造しない。

本機を改造すると、本来の性能が発揮できないばかりでなく安全性が損なわれますので、絶対に行わないでください。

## 警告





## 屋外作業について

### ①足場の安全性を十分に確保する。

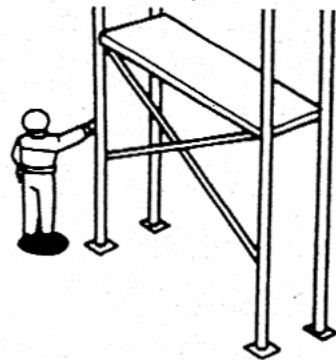
足場を使つての高所作業の場合、作業中に落ちることのないように充分足場の安全性を確認してください。

### ②直射日光をさける。

本機や充電器を直射日光に長時間あてたまま放置しないでください。

## 警告

①



②



## 打ち方

### ●水平面のステーブル打ち

前進姿勢で作業を行なってください。安全で疲労も少なく、正確で速い作業が出来ます。後退しながらの作業は足をとられるなど危険です。

### ●垂直面のステーブル打ち

本機を手の届く最も高いところまで差し上げ、上から順に下へステーブル打ちを行なってください。疲労の少ない作業が出来ます。

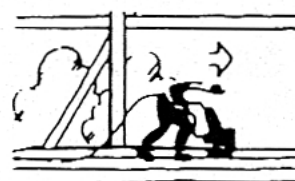
※内、外壁の同時打ちは絶対にしない。

### ●傾斜面のステーブル打ち

下から上に向つて前進姿勢でステーブル打ち作業を行なってください。上から下に後退すると足を踏みはずす危険があります。

## 警告

〔水平面〕



〔垂直面〕



〔傾斜面〕



**充電作業、充電器、電池パックについて****①指定電圧で充電する。**

必ずAC100Vのコンセントより充電してください。指定電圧以外の充電は故障の原因だけでなく危険です。

**②専用充電器で充電する。**

電池/パックJP-107を充電する時は、必ず専用充電器JC-112Eをお使いください。他の充電器で充電する事は危険ですから絶対にしないでください。

**③昇圧器などトランス類は使用しない。**

充電器故障の原因となります、必ず100V電源でご使用ください。

**④エンジン発電機や直流電源では充電しない。**

エンジン発電機や直流電源では絶対に充電しないでください。充電器が焼損する恐れがあります。

**⑤雨の中、水のかかる場所では充電しない。**

雨の中や水のかかる場所、濡れた場所、湿った場所では絶対に充電しないでください。また、電池/パックや充電器が水に濡れないように注意してください。

**⑥火気には近付けない。****⑦燃えやすいもののそばで充電しない。****⑧直射日光を避け風通しのよい場所で充電する。****⑨周囲温度が0℃～40℃の範囲で充電する。****⑩連続充電はしない。**

同じ充電器での連続充電は故障の原因となります。

1度充電完了したら15分程休ませてください。

**⑪充電器の通風孔や電池パック差し込み口に異物を入れない。**

感電や故障の原因となります。ほこりの少ない場所でご使用ください。

**⑫コードは大切に扱う。**

コードを持って充電器を運んだり、コードを引っ張ってコンセントから引き抜いたりすると、コードを傷め断線、ショートの原因になります。またコードは刃物類や高熱のもの、油、グリースなどに触れないように注意してください。コードが損傷した場合は、修理に出してください。

**⑬電池パック突起部の金属片を他の金属にふれさせない。**

発煙、発火、破裂等の恐れがありますので注意してください。

**⑭電池パックを火中に入れない。**

爆発の恐れがあります。絶対にしないでください。

### 3 安全装置について

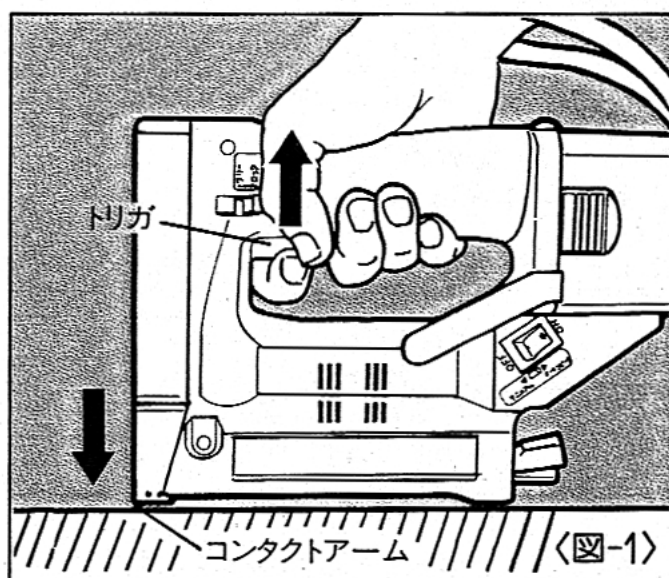
#### ⚠ 警告

- 安全装置が完全に作動するか使用前に必ず確認する。正常に作動しない場合は使用しない。

ステーブル打ち作業の安全を確保するため、本機には次のような安全装置がついています。

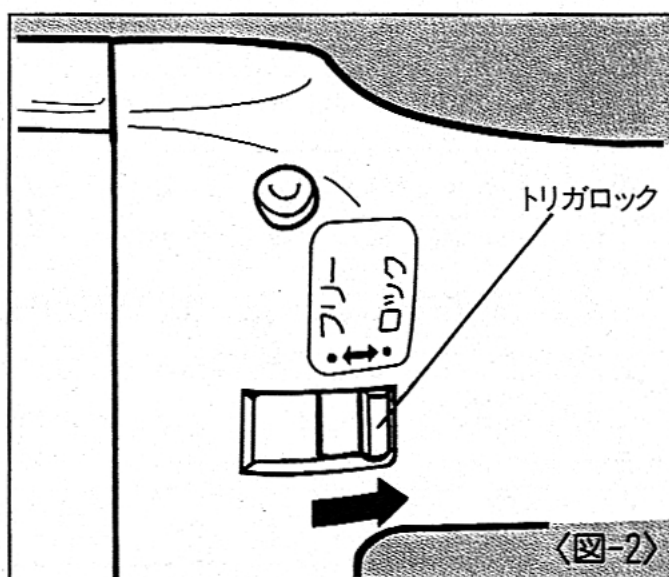
#### ①メカニカル安全装置

これはコンタクトアームとトリガが同時に作動しないと発射しないメカニズムです。つまりトリガを引いただけではステーブルは発射せず、また、コンタクトアームを打込対象物に当てただけでもステーブルは発射しません。コンタクトアームを対象物に当てる動作と、トリガを引くという動作が重なってはじめてステーブルは発射されます。 <図-1>



#### ②トリガロック装置

本機にはより安全に作業していただくためにトリガロック装置を標準装備しています。トリガロック装置とは、作業しない時に本機の使用者の意志によってトリガをロック（固定）することにより作動できないようにすることができる装置です。 <図-2>



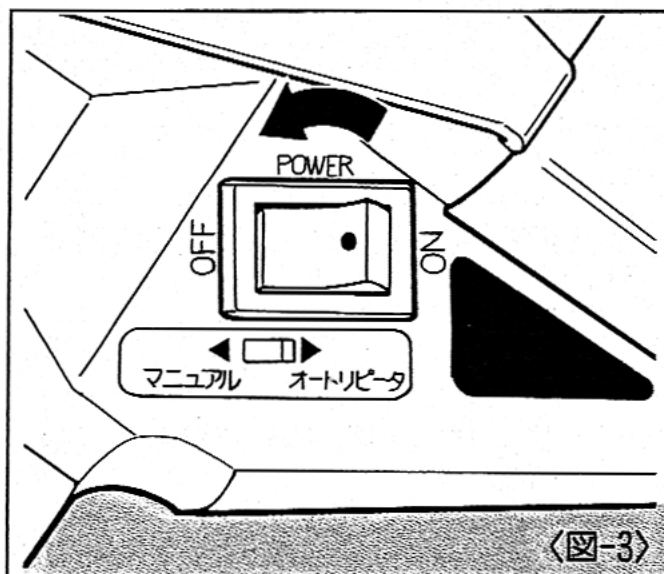
ステーブルを打っている時以外は、トリガロックをロックの位置にセットし、メインスイッチをOFFにしてください。作業を始める場合はトリガロックをフリーの位置にセットしてください。

※出荷時はトリガロックをロックの位置にセットしてあります。

### ③メインスイッチ

本機には元電源をON、OFFできるメインスイッチを標準装備しております。使用時、修理、ステープル装填時、電池パックの交換時には必ずメインスイッチをOFFにしてください。より安全な作業ができます。

〈図-3〉



### ④マイコン制御安全装置

本機は、安全作業のために、トリガを引いたままメインスイッチをONにしてコンタクトアームを対象物に当てても、コンタクトアームは可動しますがステープルが打ち込まれないマイコン制御装置が内蔵されています。必ずトリガから指をはなして、メインスイッチをONにしてください。

## ⚠ 注意

- トリガを引いたままメインスイッチをONにしない。

トリガを引いたままメインスイッチをONにし、コンタクト打ちを行なおうとすると、本体内蔵のマイコン制御安全装置が働き打ち込みができません。(この場合はブザーによる警報告知はありません。)打ち込みを再開させる場合は、トリガから指をはなし、再度トリガを引くと打ち込みが可能になります。

## ⚠ 警告

- トラブル発生時には、まず最初にメインスイッチをOFFにする。

# 4 仕様および付属品

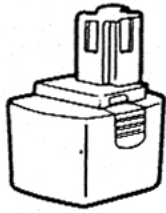
## 〔セット内容〕

	TG-ZII セット	TG-ZII
本 体	○	○
電池パック	○	○
充電器	○	—
六角棒スパナ	○	○
キャリングケース	○	—

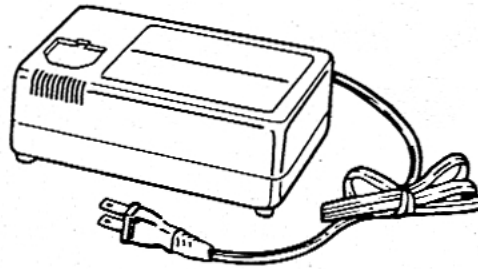
## 〈付属品〉



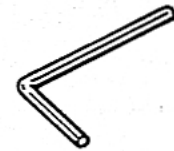
キャリングケース  
(TG-ZII セット)のみの付属



電池パックJP-107



充電器JC-112E (TG-ZII セットのみの付属)



六角棒スパナ2.5

## 〔製品仕様〕

### 〈本体〉

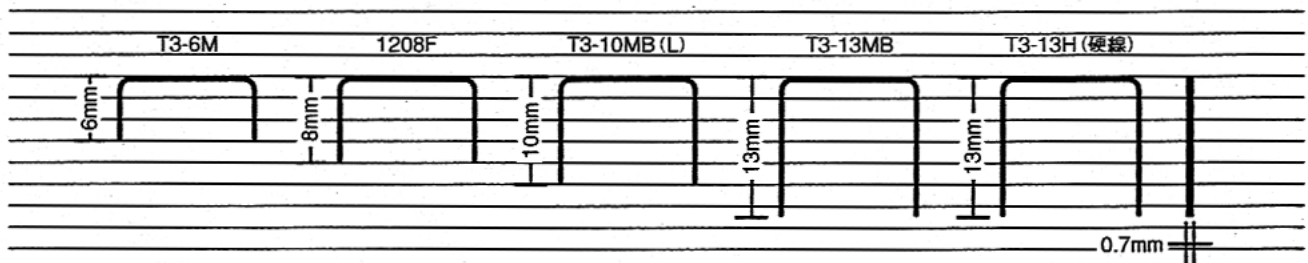
商 品 名	マックス バッテリタッカ
商 品 記 号	TG-ZII
寸 法	(H)161×(W)74×(L)221mm
重 量	1.45kg (電池パック含む)
ステーブル装填数	144本
モータ電圧	DC 7.2V
使用電池パック	マックス電池パックJP-107(付属品)

### 〈充電器〉

商 品 名	マックス電池パック充電器
商 品 記 号	JC-112E
電 源	AC100V 50-60Hz
消費電力	320VA
充電時間	標準9分
重 量	約700g
形式認可番号	▽ 91-48166NP
使用電池パック	JP-107 (7.2V)

# 5 使用ステーブル

## 使用ステーブル実寸図



一連本数50本

一連本数116本

一連本数72本  
(144本)

一連本数72本

一連本数72本

肩幅は全て12mm (内径)

# 6 使用方法

初めに電池パックを充電します。

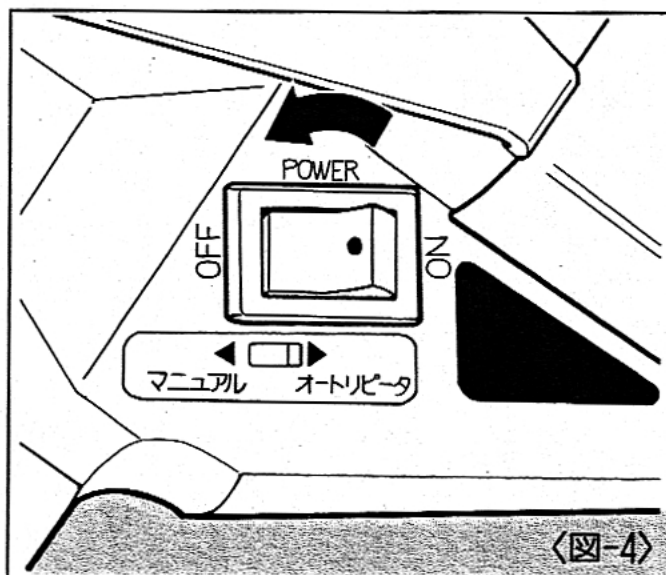
## ⚠ 警告

- 必ず100V電源で使用する。  
200V電源で使用されると充電器は焼損します。
- コードに損傷のある充電器は絶対に使用しない。  
必ず、修理に出してください。
- 必ず正常なコンセントを使用する。  
プラグをさし込んだ時に、ガタがあったり、すぐに抜けたりするコンセントをそのまま使うと過熱による事故の原因になります。このような時は、別の正常なコンセントをお使いください。

## 1 充電の仕方

- ①本機のメインスイッチをOFFにする。

〈図-4〉

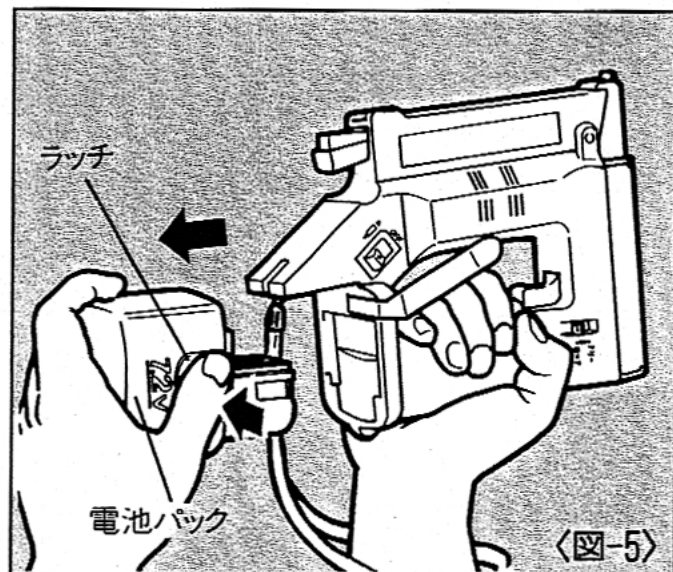


- ②電池パックを取り出す。

本体をしっかりと持ち、電池パック両脇のラッチを押しながら取り出します。

〈図-5〉

- ③充電器のプラグをコンセントにさし込む。  
充電ランプ「赤」が点滅して、通電状態を知らせます。



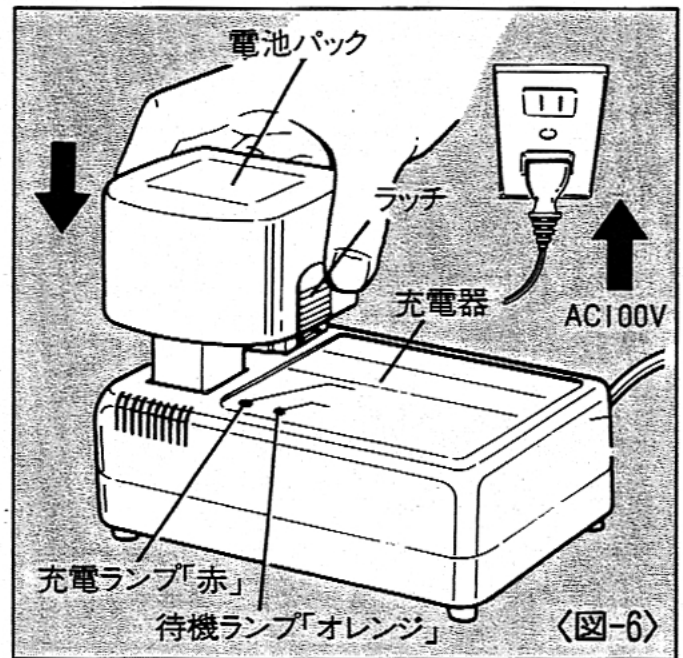
#### ④電池/パックを充電する。

1. 電池/パックを充電器の底に当たるまでしっかりとさし込みます。〈図-6〉

2. 電池/パックを充電器にセットすると、自動的に充電を開始します。充電ランプ「赤」が点灯して充電中を知らせます。

3. 標準充電時間は約9分です。充電時間は、気温や電源電圧により多少変動します。充電が完了すると、充電ランプ「赤」が点滅して充電完了を知らせます。(過充電防止回路付)充電完了した電池/パックを再度充電器にセットすると、再び充電ランプ「赤」が点灯する事がありますが故障ではありません。しばらくすると、充電完了の点滅になります。

4. 低温時(約5℃以下)や、長い間使用しなかった電池/パックを充電する時は電池の保護のため30分充電になります。充電ランプ「赤」が約2.5秒に1回点滅して保護充電中を知らせます。また、電池/パックが冷たい場合、フル充電しないことがあります。電池/パックを室内など常温の場所にしばらく置いてから再度充電してください。



### 待機ランプ「オレンジ」が点灯した場合

電池パックが熱を持っている時（例：本機の連続使用直後や、電池パックを直射日光の当たる所に長時間放置した後など）は、充電器にセットしても、電池の保護のため、電池パックの温度が下がるまで充電を自動的に待機します。

待機ランプ「オレンジ」が点灯して、待機中を知らせます。電池パックの温度が下がると、自動的に充電がスタートします。

### 待機ランプ「オレンジ」が点滅した場合

待機ランプ「オレンジ」の点滅は、充電できない状態をあらわします。

この場合は、充電器から電池パックを抜いて、電池パックさし込み口に異物が入っていないか確認してください。異物が入っていたらプラグをコンセントから抜き、柔らかいものなどで異物を取り除いてください。異物が入っていない時や、異物を取り除いても待機ランプ「オレンジ」が点滅し続ける時は、電池パックまたは充電器に異常があると考えられますので、電池パック、充電器両方一緒にお買い求めの販売店にお持ちください。

## ⚠ 注意

次のような状態は故障と考えられますので、電池パック、充電器両方一緒にお買い求めの販売店にお持ちください。

- 充電器のプラグをAC100Vのコンセントにさし込んでも充電ランプ「赤」が点滅しない。（電池パックをセットしていない状態で）
- 充電器に電池パックをセットしても、充電ランプ「赤」も待機ランプ「オレンジ」も点灯点滅しない。
- 待機ランプ「オレンジ」が点灯後1時間以上しても充電ランプ「赤」に切り替わらない。
- 充電ランプ「赤」が点灯後20分以上しても点滅に切り替わらない。

### ⑤電池パックを本体に取り付ける。

- 1.充電器を押さえ、電池パックを取り出します。
- 2.充電器のプラグをコンセントから外してください。これで充電作業すべて完了です。
- 3.電池パックを本体に、カチッと音のするところまでさし込んで取り付けてください。

## ⚠ 警告

- 電池パックを本体に取り付ける時は、必ずトリガから指をはなして行なう。



## 電池パックの充電容量について

電池/パックは充電時の温度によって充電容量が変化します。特に本機の連続使用後や、電池/パックを直接日光の当たる所に長時間放置し、電池/パックの温度が上昇した場合は、充電容量が低下します。このような場合は、1度電池/パックを冷やしてから充電してください。

## 電池パックの寿命について

正しく充電しても電池/パックの使用時間が著しく低下してきた場合は、電池/パックの寿命が尽きたものとお考えいただき、新しい電池/パックをお買い求めください。寿命の尽きた電池/パックをそのままお使いになりますと、充電器故障の原因になります。

## 電池の不活性化について

お買い求めの時や、長い間（2ヶ月間以上）ご使用にならなかった時は、充電完了のまま、24時間充電してください。（電池/パック性能回復のため）

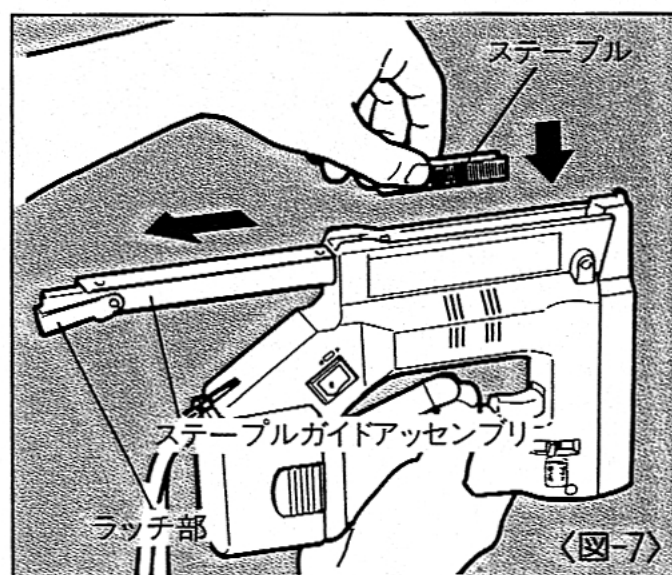
## ② ステープレの装填の仕方

### ⚠ 警告

- ステープル装填の時は、必ず本機のトリガをロックし、メインスイッチをOFFにする。

- ①ステープルガイドアッセンプリのラッチ部をつまみます。
- ②ステープルガイドアッセンプリを引き出し、ステープルを装填します。
- ③ステープルガイドアッセンプリを元に戻します。  
ステープルガイドアッセンプリを突き当たるまで奥に押し込みラッチをはなします。

〈図-7〉



### ③ 打ち方

本機のステープルの打ち方には「トリガ打ち」「コンタクト打ち」「オートリピータ打ち」の3種類の打ち方があります。

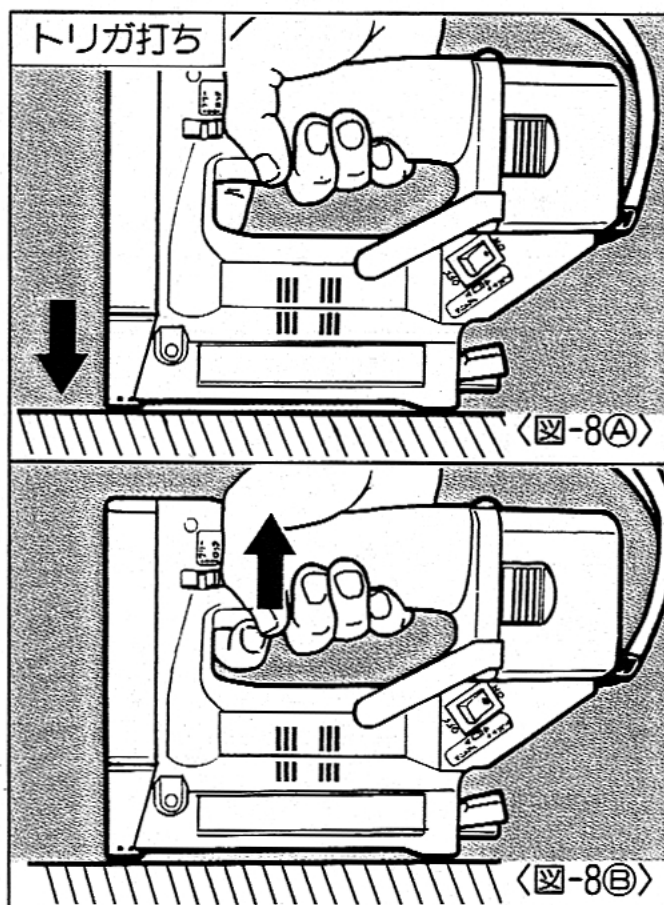
#### ⚠ 警告

- 射出口をしっかりと対象物に押し付けて打ち込みを行なう。  
打ち込む瞬間に機械を持ち上げないようにしてください。ステープルが浮くことがあります。
- 打ち込みを再開する場合は本機を持ち上げ、コンタクトアームを解除する。  
コンタクトアームを押したままトリガを3秒以上作動させないと「ピー」という警報とともに打ち込みができなくなります。(故障ではありません。) 打ち込みを再開する場合は本機を持ち上げ、コンタクトアームを解除してください。
- メインスイッチをONにする時は、必ずトリガから指をはなした状態で行なう。

- ① メインスイッチをONにする。
- ② トリガロックをフリーの位置にセットする。

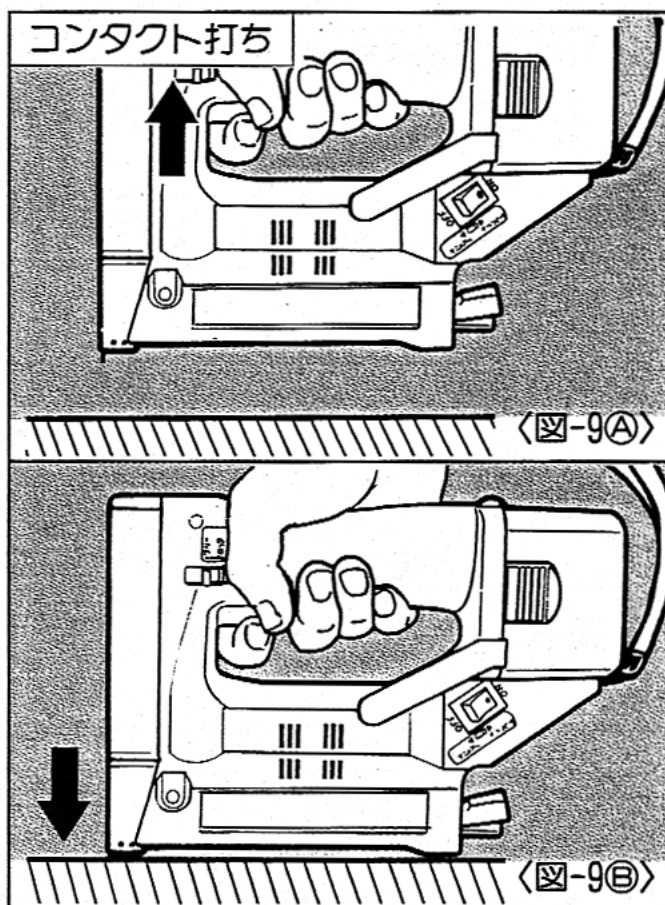
#### トリガ打ち

打込位置を正確に狙いたい時には、ステープルを打とうとする場所に、コンタクトアームの先端を押し当ててからトリガを引きます。  
〈図-8A〉〈図-8B〉



## コンタクト打ち

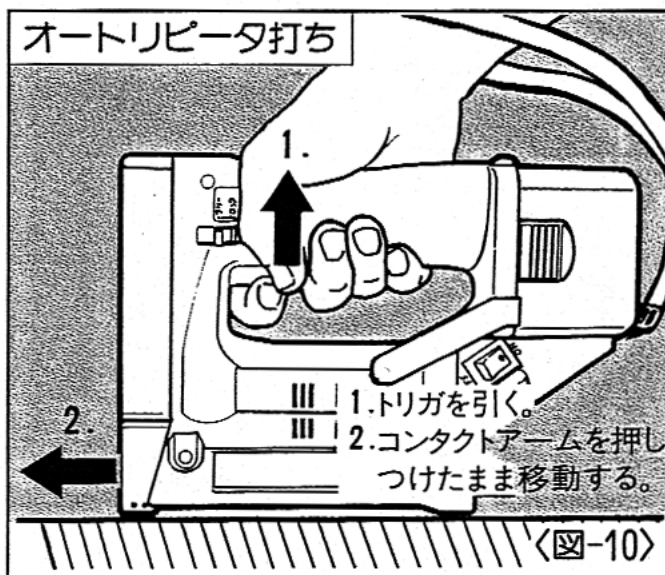
早く打ちたいときは、トリガを引いたままステープルを打とうとする場所にコンタクトアームの先端を打ち当てるだけで連続動作ができます。 〈図-9A〉〈図-9B〉



## オートリピータ打ち

オートリピータとは、打込対象物にコンタクトアームを押し付けたまま、トリガを引いた状態で維持すると連続的に2本/秒の打ち込み間隔でステープルを部材に打ち込むことができる機構です。

1. オートリピータスイッチをマニュアルからオートに切り換えます。(製品出荷時、オートリピータスイッチはマニュアルの位置にセットしてあります。)
2. 対象物にコンタクトアーム先端を押しつけ、トリガを引いたまま保持し続け、本機を移動させていきます。この動作を継続させることにより連続的に打ち込みが行われます。 〈図-10〉



## ⚠ 注意

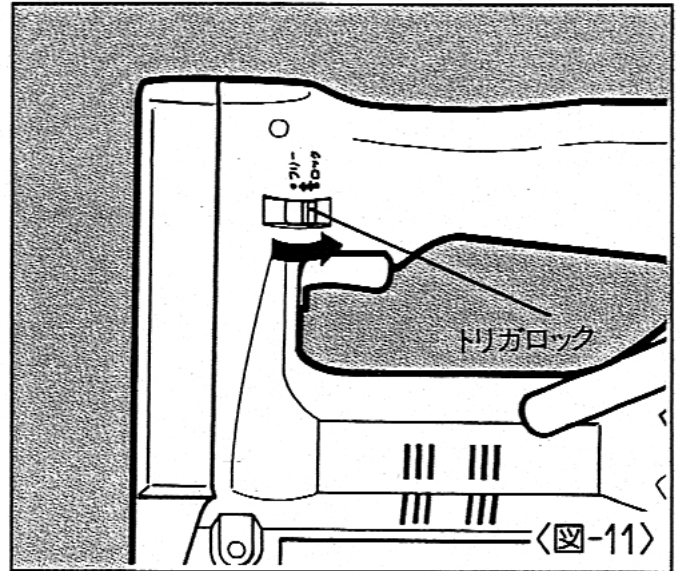
- オートリピータ打ちは連続してステープルが打ち込まれますので、本機を移動させて使用しないと同一箇所に連続してステープルが打ち込まれ、ステープルづまりとなる場合がありますので注意してください。

# 7 ステープルぶまりの直し方

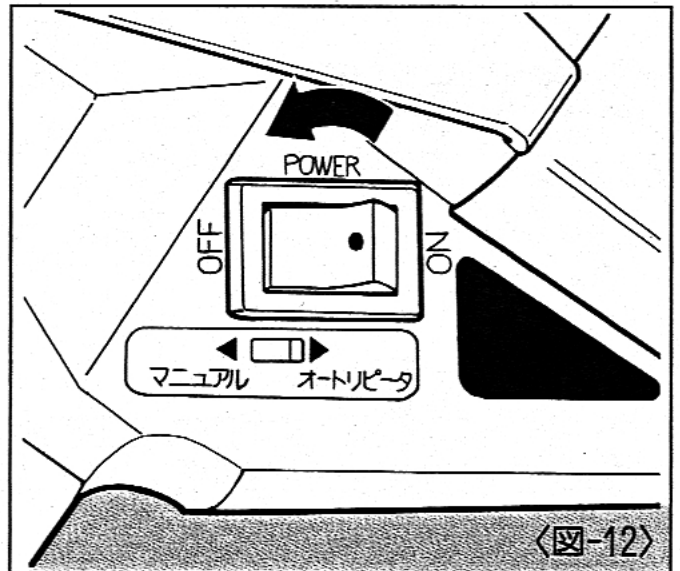
## ⚠ 警告

- 保護メガネは着用したままで行なう。
- ステープルぶまりを指で除去しない。  
必ず「やっところ」等で行なう。
- 必ずトリガをロックし、メインスイッチをOFFにしてから行なう。
- ステープルの射出口を下向きにして行なう。
- 周囲に人がいない事を確認して行なう。

①トリガをロックしてください。〈図-11〉

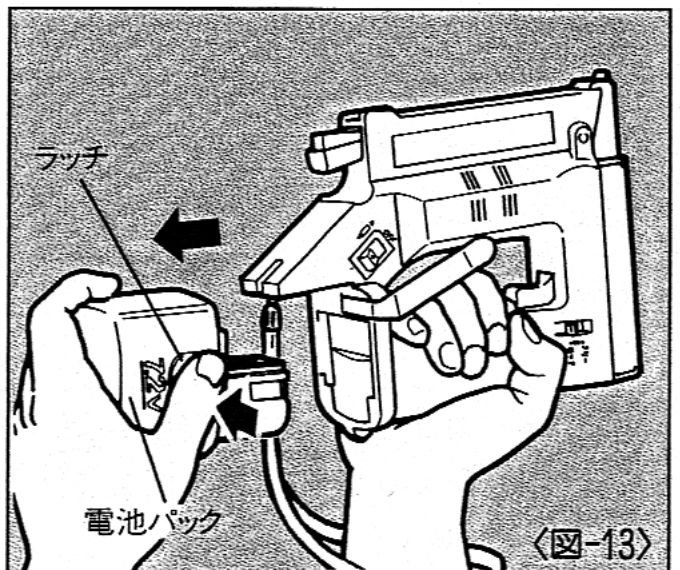


②メインスイッチをOFFにしてください。  
〈図-12〉



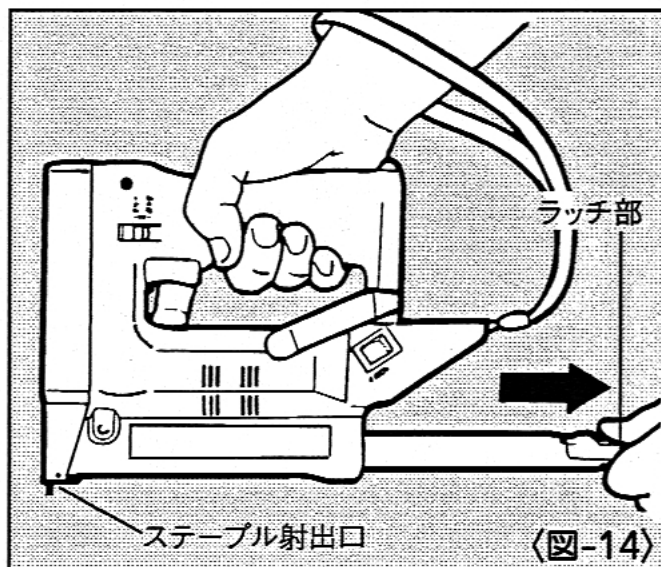
③電池パックをはずしてください。  
〈図-13〉

④周囲に人がいないことを確認してください。



- ⑤ステープル射出口を下向きにして、ステープルガイドアセンブリのラッチ部をつまみ、ステープルガイドアセンブリを最後まで引き出してください。

〈図-14〉

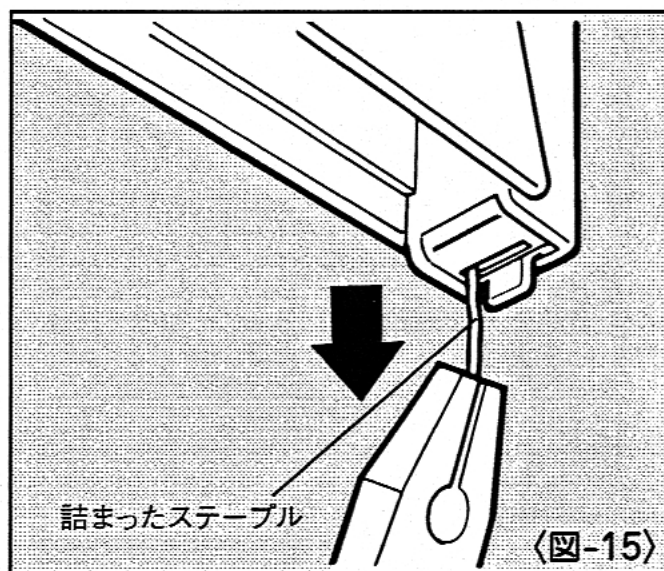


### ⚠ 警告

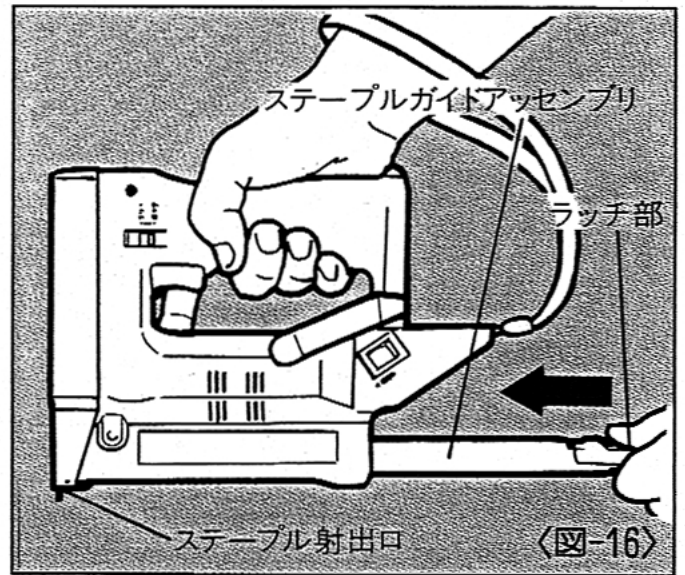
- マガジンに残っているステープルが落下したり、飛び出すことがあるので注意する。

- ⑥「やっところ」又は「ニッパ」等をつまんだステープルを除去してください。

〈図-15〉

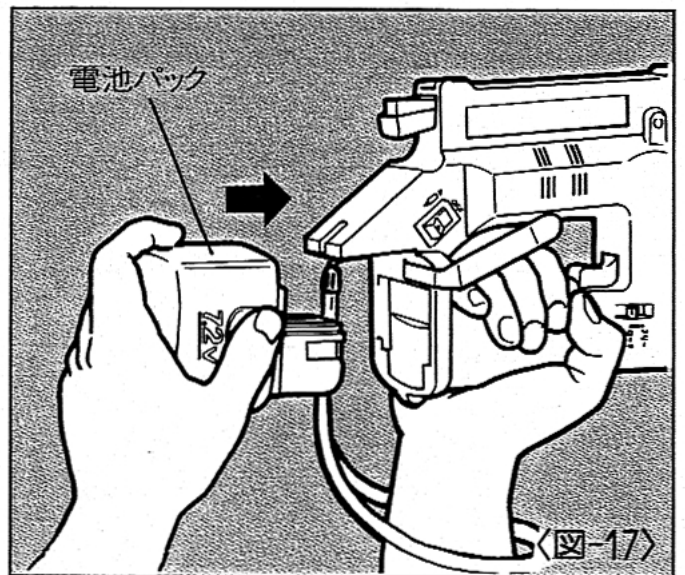


- ⑦ステープルガイドアッセンブリを押し入れてください。  
〈図-16〉



- ⑧電池を再びセットしてください。

〈図-17〉



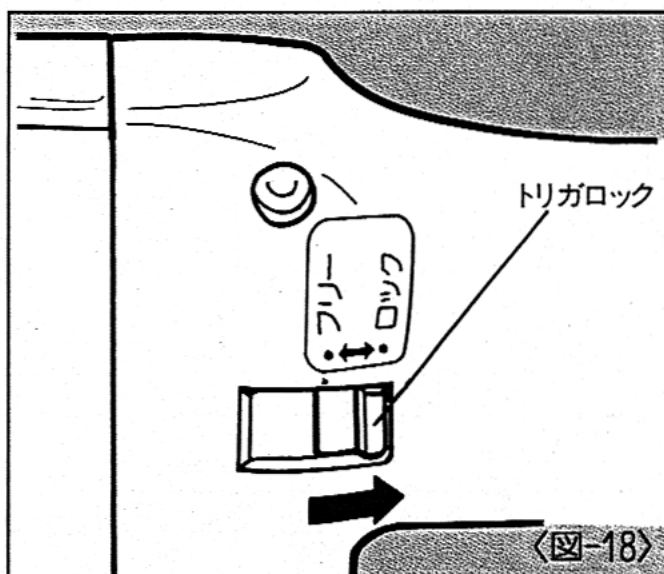
## 8 コンタクトアームの掃除の仕方

アスファルト、ゴミ等がコンタクトアームに付着して、コンタクトアームが動かなくなった場合は、「ピー」というブザーによる警報で知らせます。この場合は以下のようにコンタクトアームの掃除を行なってください。

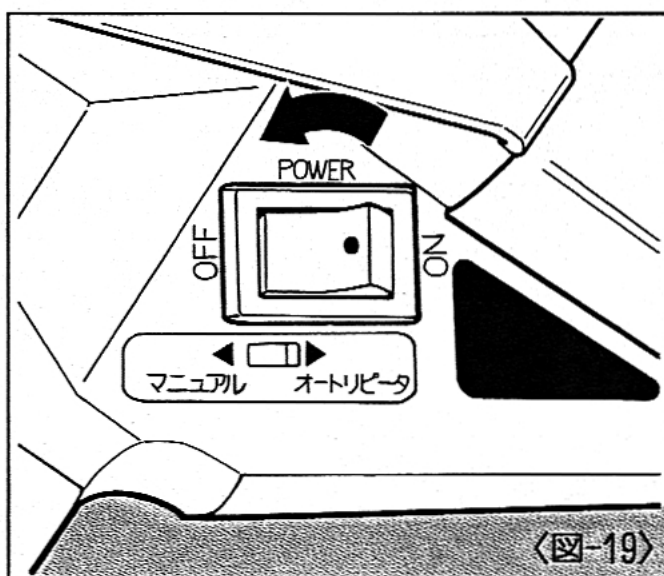
### ⚠ 警告

- 保護メガネは着用したままで行なう。
- 必ずトリガをロックし、メインスイッチをOFFにしてから行なう。
- ステープルの射出口を下向きにして行なう。
- 周囲に人がいない事を確認して行なう。

①トリガをロックしてください。〈図-18〉



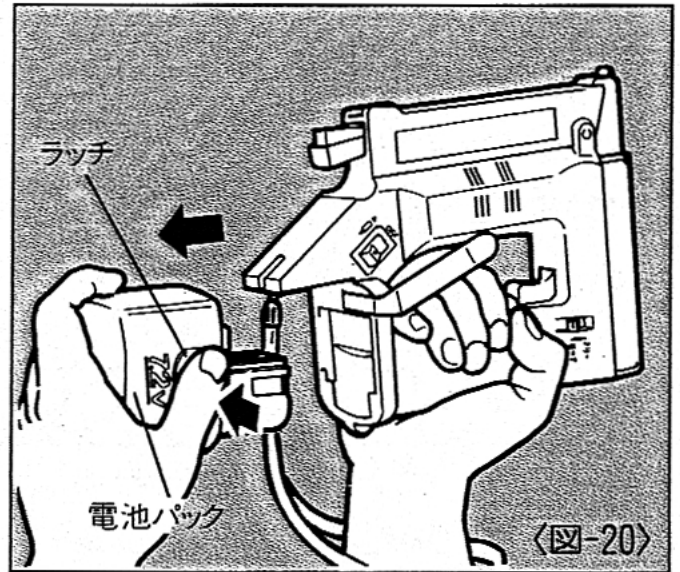
②メインスイッチをOFFにしてください。  
〈図-19〉



③電池/パックをはずしてください。

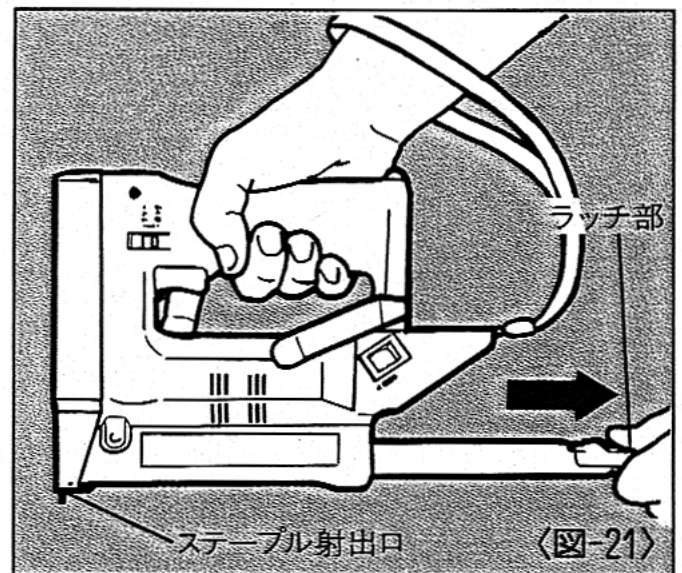
〈図-20〉

④周囲に人がいないことを確認してください。



⑤ステープル射出口を下向きにして、ステープルガイドアッセムブリのラッチ部をつまみ、ステープルガイドアッセムブリを最後まで引き出してください。

〈図-21〉

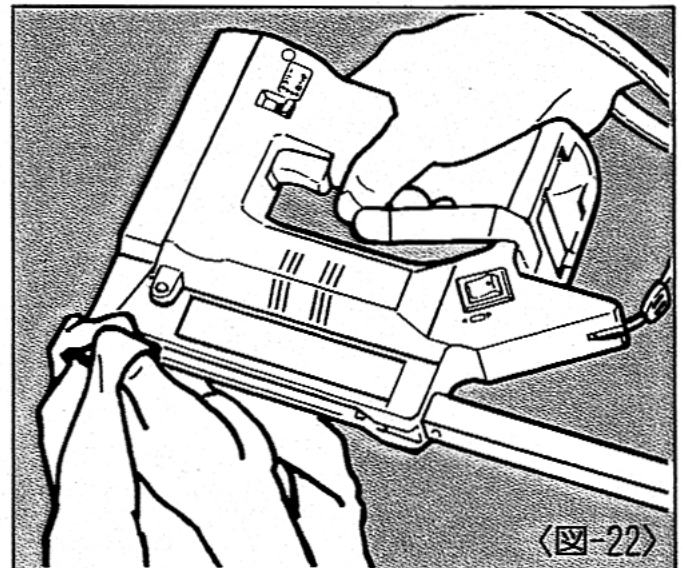


### ⚠ 警告

●マガジンに残っているステープルが落下したり、飛び出すことがあるので注意する。

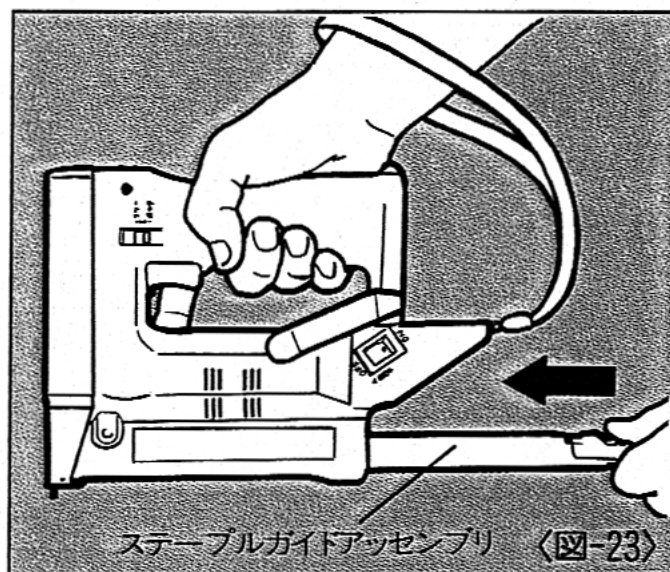
⑥乾いた布等でコンタクトアームに付着しているアスファルト、ゴミ等をふき取ってください。

〈図-22〉

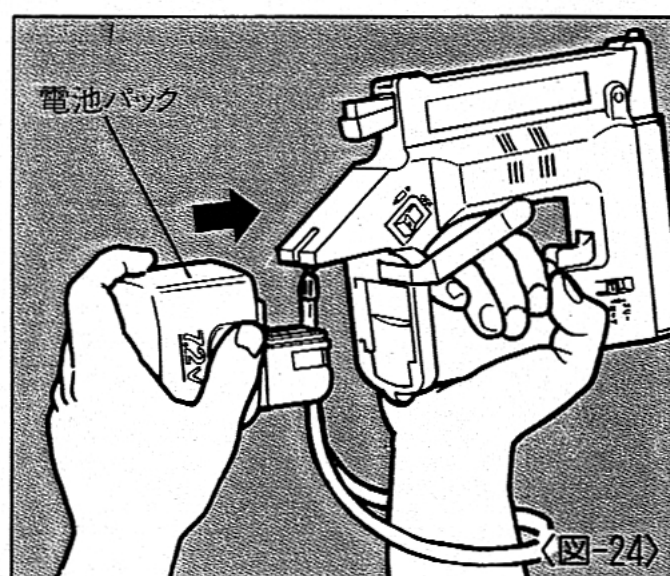




- ⑦ステープルガイドアッセンブリを押し入れてください。  
〈図-23〉



- ⑧電池パックを再びセットしてください。  
〈図-24〉



※コンタクトアームを対象物に押し当て、トリガを引いても機械が作動しない場合は、トリガをロックし、メインスイッチをOFFにし、お買い求めの販売店、又はマックスサービス㈱に修理を依頼してください。

## 9 ブザーによる警報と処置方法

本機は下記状態をブザーで警報します。ブザーが鳴りましたら下記状態に合わせ処置してください。

ブザーの鳴り方	状態	処置方法
「ピー、ピー、ピー」というブザーによる断続音が続きます。	電池パックの充電時期が来た。	トリガをロックし、メインスイッチをOFFにし、電池パックを充電してください。(電池パックの充電方法12ページ参照)
トリガを引くと「ピ、ピ、ピ、ピ、ピ」というブザーによる断続音が鳴ります。	連続使用による機械内部の温度上昇。	作業を中断しトリガをロックしてメインスイッチをOFFにしてください。熱をさますと再び作動するようになります。
「ピー」というブザーの連続音が続きます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ステープルづまり。</li> <li>②コンタクトアームを押し続けたままトリガを3秒以上作動させない場合。</li> <li>③アスファルト、ゴミ等がコンタクトアームに付着し、コンタクトアームが復帰しない場合。</li> <li>④機械内部の故障。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①必ずトリガをロックしメインスイッチをOFFにし、マガジン内に装填しているステープルを抜き取ってから、射出口からステープルを取りのぞいてください。(ステープルがつまったときの処置方法18ページ参照)</li> <li>②コンタクトアームを復帰させる。</li> <li>③コンタクトアームの掃除を行なう。(コンタクトアームの掃除の仕方21ページ参照)</li> <li>④つまったステープルを除去してもブザー音が鳴り続ける場合は機械内部の故障です。使用を中止してください。</li> </ul>

### ⚠ 警告

- 上記の状態になりましたら必ずトリガをロックし、メインスイッチをOFFにしてから処置を行なう。
- 以上の処置方法を施してもブザーが鳴り止まない時はトリガをロックし、メインスイッチをOFFにし、お買い求めの販売店またはマックスサービス(株)に修理を依頼してください。

## 10 ニカド電池のリサイクルについて

マックス電池パックはニッケルカドミウム電池を使用しています。ニッケルカドミウム電池はリサイクル可能な重要な資源です。寿命の尽きた電池パックは廃棄せずにお買い求めの販売店、もしくは最寄りのマックスサービス(株)へお持ちください。環境の保全と資源のリサイクルにご協力をお願いいたします。

## 11 性能を維持するために

### ①本機の改造・加工を絶対に行わない。

本機を改造すると本来の性能が発揮できないばかりでなく安全性が損なわれますので、絶対に行わないでください。

### ②定期的に点検をする。

本機の性能を維持する為に清掃、点検を定期的に行ってください。

### ③注油をしない。

本機には注油を絶対にしないでください。封入してあるグリス等が取れ、故障の原因となります。

## 12 保証、アフターサービス、補修用性能部品について

### 【保証について】

●本機には保証書（梱包箱に添付）がついています。

●所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。

●本機の基本保証期間はご購入日より1年間です。

「お客様登録カード」にて登録手続きしていただいたお客様に限り、保証期間が2年間となります。

### 【アフターサービスについて】

●本機の調子が悪いときは、使用を中止して、お買い求めの販売店又はマックスサービス(株)にご相談ください。

●保証期間中の修理は保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理は、修理によって機能が維持できる場合に、ご要望により有償修理させていただきます。

### 【補修用性能部品の最低保有期間】

●本機の補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後6年です。

●補修用性能部品とは、本機の性能を維持するために必要な部品です。

この取扱説明書は再生紙を使用しています。



マックス株式会社

本社・営業本部	〒103-8502	中央区日本橋箱崎町6-6	TEL (03) 3669-8121(代)
札幌支店	〒060-0041	札幌市中央区大通東6-12-8	TEL (011) 261-7141(代)
仙台支店	〒984-0002	仙台市若林区卸町東2-1-29	TEL (022) 236-4121(代)
東京支店	〒103-8502	中央区日本橋箱崎町6-6	TEL (03) 3669-8118(代)
名古屋支店	〒461-0025	名古屋市東区徳川1-11-23	TEL (052) 935-8531(代)
大阪支店	〒553-0004	大阪市福島区玉川1-3-18	TEL (06) 6444-2031(代)
広島支店	〒733-0035	広島市西区南観音7-11-24	TEL (082) 291-6331(代)
福岡支店	〒812-0006	福岡市博多区上牟田1-5-1	TEL (092) 411-5416(代)
盛岡営業所	〒020-0824	盛岡市東安庭2-10-3	TEL (019) 621-3541(代)
宇都宮営業所	〒321-0933	宇都宮市築瀬町2313	TEL (028) 636-3012(代)
柏営業所	〒277-0871	柏市若柴297-12	TEL (04) 7132-1500(代)
多摩営業所	〒190-0022	立川市錦町5-17-19	TEL (042) 528-3051(代)
浜松営業所	〒433-8117	浜松市高丘東2-22-15	TEL (053) 439-3300(代)
南九州営業所	〒891-0115	鹿児島市東開町3-24	TEL (099) 269-5347(代)
新潟マックス(株)	〒955-0081	三条市東裏館2-14-28	TEL (0256) 34-2112(代)
水戸マックス(株)	〒310-0043	水戸市松ヶ丘2-3-27	TEL (029) 255-3761(代)
群馬マックス(株)	〒371-0844	前橋市古市町233-5	TEL (027) 210-7755(代)
埼玉マックス(株)	〒331-0823	さいたま市北区日進町3-421	TEL (048) 651-5341(代)
千葉マックス(株)	〒284-0001	四街道市大日1870-1	TEL (043) 422-7400(代)
横浜マックス(株)	〒241-0822	横浜市旭区さちが丘7-6	TEL (045) 364-5661(代)
長野マックス(株)	〒399-0033	松本市笹賀8155	TEL (0263) 26-4377(代)
長野営業所	〒381-2247	長野市青木島1-35-1	TEL (026) 285-6740(代)
静岡マックス(株)	〒422-8036	静岡市敷地1-3-26	TEL (054) 237-6116(代)
金沢マックス(株)	〒921-8061	金沢市森戸2-15	TEL (076) 240-1871(代)
富山営業所	〒930-0827	富山市上飯野字樋向割10-8	TEL (076) 452-0182(代)
福井営業所	〒918-8237	福井市和田東2-1711	TEL (0776) 27-3378(代)
京滋マックス(株)	〒612-8414	京都市伏見区竹田段ノ川原町9	TEL (075) 645-5061(代)
兵庫マックス(株)	〒652-0832	神戸市兵庫区鍛冶屋町2-1-2	TEL (078) 652-7370(代)
三木営業所	〒673-0404	三木市大村109-1	TEL (0794) 83-2121(代)
岡山マックス(株)	〒700-0971	岡山市野田3-23-28	TEL (086) 246-9516(代)
四国マックス(株)	〒761-8056	高松市上天神町761-3	TEL (087) 866-5599(代)
徳島営業所	〒770-0866	徳島市末広1-4-25	TEL (088) 623-0286(代)
松山営業所	〒790-0951	松山市天山2-1-35	TEL (089) 913-0608(代)
マックスサービス(株)札幌	〒060-0041	札幌市中央区大通東6-12-8	TEL (011) 231-6487(代)
マックスサービス(株)仙台	〒984-0002	仙台市若林区卸町東2-1-29	TEL (022) 237-0778(代)
マックスサービス(株)高崎	〒370-0031	高崎市上大類町412	TEL (027) 350-7820(代)
マックスサービス(株)埼玉	〒331-0823	さいたま市北区日進町3-421	TEL (048) 667-6448(代)
マックスサービス(株)名古屋	〒461-0025	名古屋市東区徳川1-11-23	TEL (052) 935-8210(代)
マックスサービス(株)大阪	〒553-0004	大阪市福島区玉川1-3-18	TEL (06) 6446-0815(代)
マックスサービス(株)広島	〒733-0035	広島市西区南観音7-11-24	TEL (082) 291-5670(代)
マックスサービス(株)福岡	〒812-0006	福岡市博多区上牟田1-5-1	TEL (092) 451-6430(代)

●マックスお客様ご相談ダイヤル(無料) 0120-228-358  
月～金曜日 午前9時～午後6時

●住所、電話番号などは都合により変更になる場合があります。